

正倉院宝物に学ぶ 2

▶ 四六判・304頁／定価2,625円（5%税込） ISBN978-4-7842-1658-1

2012年10月刊行

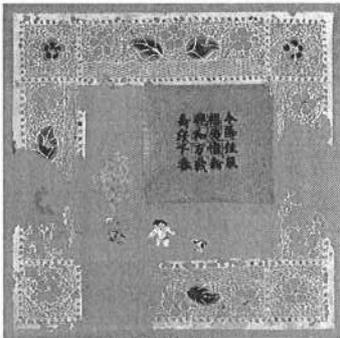
日々、宝物の保存と修理に携わる宮内庁正倉院事務所の研究者をはじめ、東大寺・奈良国立博物館ゆかりの国内外の研究者が、正倉院宝物の様々な面を報告・討論する第2弾。今回は2008～2010年の正倉院学術シンポジウム「正倉院研究の現在」「皇室と正倉院宝物」「正倉院宝物はどこで作られたか」の3テーマを収録。

【内容目次】

※執筆者の肩書は2012年9月20日現在

序文（湯山賢一・奈良国立博物館長）

第I部 正倉院展60回 その歴史と未来 正倉院学術シンポジウム2008



人勝残欠雑張

明治期の正倉院一宝物の調査・展示・評価—

……………鈴木廣之・東京学芸大学教授

正倉院宝物の公開 一九四〇／一九四六

……………西山 厚・奈良国立博物館学芸部長

正倉院の古裂の一般公開—明治・大正時代の古裂整理—

……………尾形充彦・宮内庁正倉院事務所保存課整理室長

座談会「正倉院文書六〇回の軌跡」

青山 茂・奈良学研究者

守屋弘斎・東大寺長老

阿部 弘・元宮内庁正倉院事務所長

阪田宗彦・元奈良国立博物館学芸課長

内藤 栄・奈良国立博物館学芸部長補佐

第II部 皇室と正倉院宝物

正倉院学術シンポジウム2009

奈良朝の宮廷生活……………清水 健・奈良国立博物館学芸部主任研究員

孝謙天皇と正倉院宝物……………野尻 忠・奈良国立博物館学芸部企画室長

正倉院宝物の模造 —その歴史と意義—……………西川明彦・宮内庁正倉院事務所保存課保存科学室長

正倉院宝物と宮中行事……………米田雄介・元宮内庁正倉院事務所長

パネルディスカッション

第III部 正倉院宝物はどこで作られたか 正倉院学術シンポジウム2010

正倉院宝物を考える……………成瀬正和・宮内庁正倉院事務所保存課長

—舶載品と国産品の視点から—

法隆寺献納宝物の製作地について……………加島 勝・大正大学教授

—金工品を中心にして—

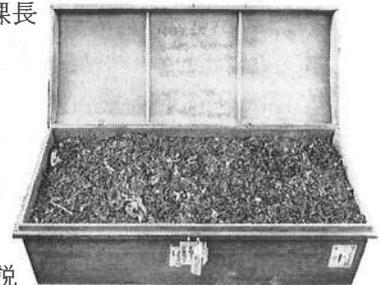
工芸技法よりみた国産宝物……………内藤 栄

正倉院金銀花盤の産地・年代及び

模倣原型をめぐって……………王 維坤・西北大学教授

パネルディスカッション

正倉院学術シンポジウム開催一覧／正倉院年表／口絵解説／用語解説



唐櫃の塵芥古裂

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355
http://www.shibunkaku.co.jp

tel075-751-1781 fax075-752-0723
E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票

発行：思文閣出版

（京都 取引コード 3402）

冊数	冊	正倉院宝物に学ぶ 2		本体2,500円（税別）	ISBN978-4-7842-1658-1
お名前		tel			書店番線印
		e-mail			
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由（このちらしを書店にお渡し下さい） <input type="checkbox"/> 代引（書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い）				

※正倉院宝物に学ぶ

奈良国立博物館編

日々、宝物の保存と修理に携わる宮内庁正倉院事務所の研究者をはじめ、東大寺・奈良国立博物館ゆかりの国内外の研究者が、正倉院研究の現在、八世紀の東アジア文化、宝物の保存・伝承の3つのテーマで報告・討論。正倉院宝物の精粹がわかる一書。

▶46判・口絵8頁、本文430頁／定価3,150円 ISBN978-4-7842-1439-6

※正倉院文書の国語学的研究

桑原祐子著

正倉院文書は原本が存在し編纂物ではなく、多種多様な内容で、同類の文書・帳簿が多量にあり、筆録者と年月日が特定できるなど他の古代の国語資料には求められない特質をそなえる。本書は正倉院文書のもつ可能性を引き出すべく具体的な語彙に注目し、文字の形態と語の意義の関係を明らかにし、新語の発生・ゆれ・定着の過程を裏証し、語の変遷を考察した意欲作。

▶A5判・300頁／定価5,670円 ISBN4-7842-1275-2

※東大寺文書を読む

堀池春峰監修／綾村宏・永村眞・湯山賢一編

古代を今に伝える東大寺文書(平成10年国宝指定)より50余点を選びその魅力を紹介。各文書には第一線の研究者による解説と釈文を付す。文書写真は大型図版で掲載、カラー口絵4点を付す。

▶B5判変・192頁／定価2,940円 ISBN4-7842-1074-1

続日本仏教美術史研究

中野玄三著

前著『日本仏教美術史研究』から約20年。現役引退後も美術作品の調査研究を続ける中から生まれた知恩寺本十体阿弥陀像、東寺本仁王経五方諸尊像、西大寺本馬頭観音像、神護寺薬師如来立像ほかについての研究成果15篇を収録。日本仏教美術史学における中野学説の総決算。

▶A5判・500頁／定価11,500円 ISBN4-7842-1269-8

東寺宝物の成立過程の研究

新見康子著

南北朝時代の寺誌である『東宝記』や東寺百合文書にみられる宝物目録などの豊富な史料をもとに、東寺に残る文化財の伝来過程を具体的に体系化した一書。今後の文化財の活用や保存を前提に、本来の保管形態を復元し、伝来を確定して位置付けをしなおす。カラー口絵4頁・本文挿入図版80点。

▶A5判・634頁／定価12,600円 ISBN978-4-7842-1368-9

※高句麗壁画古墳と東アジア

門田誠一著

本書では壁画に描かれた図像や題材のなかで、もっとも重要な対象である墓主像に焦点をあて、文献や金石文と照らし合わせながら体系的に考察する。高句麗社会と文化の一端を復元し、古代のみならず、東アジアの歴史的時空の再構築をめざす労作。

▶A5判・448頁／定価9,030円 ISBN978-4-7842-1546-1

中世考古美術と社会

難波田徹著

古絵図研究20年の著者が、元徳本祇園社絵図、社寺参詣曼陀羅図、関ヶ原合戦図、高山寺・善妙寺領勝示絵図などを題材に古絵図を論じ、鞍馬寺、花背別所、大道寺、北野天満宮などの経塚や大日寺、法金剛院、飯盛山などの瓦塚の研究から埋塚を論じる。

▶A5判・556頁／定価10,290円 ISBN4-7842-0649-3

歴史のなかの天皇陵

高木博志・山田邦和編

近年、学界の要請をうけて限定公開され、社会的にも大きな関心を集めている陵墓。各時代に陵墓がどうあり、社会のなかでどのように変遷してきたのか、考古・古代・中世・近世・近代における陵墓の歴史をやさしく説く。京都アスニーで行われた公開講演に加え、研究者・ジャーナリストによるコラムや、執筆者による座談会を収録。

▶A5判・340頁／定価2,625円 ISBN978-4-7842-1514-0

※正倉院展六十回のあゆみ

奈良国立博物館編集・発行

終戦直後の昭和21年に奈良皇室博物館で第1回正倉院展が開始されて以来、秋の風物詩となっている正倉院展の歩みを各回の主な出陳宝物の図版や特徴・エピソード・出陳一覧などのデータと各分野の研究者によるエッセイでたどる。

▶A4判・286頁／定価3,150円 ISBN978-4-7842-1440-2

博仏の来た道 白鳳期仏教受容の様相

後藤宗俊著

日本では比較的限られた地域に受容され短命のうちに姿を消した博仏が大分県宇佐市の虚空蔵寺跡でまとも出土する。「博仏の来た道」を丹念にたどり、そこにこめられた祈りの諸相を解明し、あわせてその途上に浮かび上がる玄奘・道昭・法蓮などの偉大な僧の信仰と人間像に迫る。虚空蔵寺跡の調査に携わった著者が学際的に探った一書。

▶A5判・322頁／定価5,985円 ISBN978-4-7842-1433-4

奈良朝人物列伝 『続日本紀』 薨卒伝の検討

林陸朗著

『続日本紀』収録の全54名の薨卒伝をとりあげ現代語訳・訓読・原文・語句解説・考察で構成。特色ある54の生きざまから、権謀うずまく奈良朝政治のうら側が見えてくる。

▶A5判・468頁／定価7,350円 ISBN978-4-7842-1517-0

続々日本仏教美術史研究

中野玄三著

仏教美術史研究三部作の最新刊。50年に及ぶ中野美術史学の集大成。【内容】縁起絵篇 縁起絵序説／『八幡縁起』の展開／宇良神社本『浦島明神縁起』について 仏像・仏画篇 観智院本『九曜秘曆』について／「密教図像と鳥獣戯画」再論 ほか

▶A5判・812頁／定価17,850円 ISBN978-4-7842-1415-0

仁明朝史の研究 承和転換期とその周辺

角田文衛監修／(財)古代学協会編

(財)古代学協会にて行われた平安時代をテーマとした共同研究の最新成果。王朝文化の先駆けを成す重要な転換期である仁明天皇(在位833～858年)の時代の歴史的意義を、文献史学・考古学・美術史などから多角的に解き明かし、日本国内のみならず東アジア世界の動向とも関連づける。

▶A5判・356頁／定価7,350円 ISBN978-4-7842-1547-8

北太平洋の先住民交易と工芸

大塚和義編

アイヌをはじめとする北太平洋地域先住民の交易ルートの実態を明かし、あわせて文化遺産としての工芸芸術を紹介。歴史学・考古学・化学分析などの学際的な最新の成果を盛り込んだ多彩な執筆による全34編。先住民の暮らしと産業をビジュアルに理解できるカラー図版150点を収録

▶A4判・150頁／定価2,940円 ISBN4-7842-1087-3

古文化財の科学

山崎一雄著

古文化財の科学的研究の第一人者による45年余にわたる成果。正倉院宝物の調査、装飾古墳・高松塚・法隆寺金堂壁画・栄山寺八角堂・醍醐寺五重の塔・源氏物語絵巻の顔料分析、正倉院の陶器・ガラスや緑釉陶などの科学分析、および銅鏡・銅鐸・青銅器の成分分析に関する諸報告を収録。

▶A5判・380頁／定価6,615円 ISBN4-7842-0482-2

幕末維新期の陵墓と社会

上田長生著

陵墓に政治的意味を付与し、祭祀を行おうとする政治権力(朝廷・山陵奉行)と在地社会の軋轢・葛藤が最も明確に現れた陵墓管理・祭祀に注目する。とりわけ文久～慶応期の面周期性を恒常的な陵墓管理制度と皇霊祭祀が始められたことに求め、陵墓管理・祭祀がもたらされた村・地域社会の側の動向を国毎の違いを明確にしつつ、管理を担った人々の内在的論理に即して検討。

▶A5判・400頁／定価6,510円 ISBN978-4-7842-1604-8

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。